

## はじめに

同級生や近所の子ども達といっしょに野球がしたかったが、身体に障害があったためにできませんでした。大人になったある日、近所の友達が誘ってくれたことがキッカケで、野球に挑戦。選手だけが野球じゃない、監督や事務局だったらできることに気が付きました。

市の顔となる事業を作ろうとしていた市長に、地域で盛んに行われている野球でまちづくりを提案し、快諾を得て市長の肝いり事業として、全国で初めて設置された「野球のまち推進課」の課長として、「野球のまち阿南」のキャッチフレーズのもと、「プロ野球よりも草野球」「野球選手は観光客」など、斬新な発想のもと次々と事業化をしました。そして新たな事業に取り組み、野球と観光をセットにした「野球観光ツアー」、60歳以上の女性で構成するチアリーダー「ABO60」、観光施設「89番野球寺」、雪国の高校野球出場校の「選抜直前合宿」など、以前からあったのは野球場だけ、あとはすべて、斬新な発想と

才覚で、宿泊観光客ゼロの町と言われた阿南市に野球だけで年間の宿泊客延べ5000人、日帰り客6000人、経済効果約1億3000万円の事業を創出することができたのです。

このようなユニークな事業を推進することができた背景には、市民の皆さんの協力と全国野球を愛する人達の応援によるところが大きかったと思います。本書は、お世話になった皆様へのお礼と、スポーツによるまちづくりに取り組まれる皆様の参考にしていただければと思い、書き記すことにしました。

2021年2月

田上 重之

野球のまち阿南をつくった男

---

目次

はじめに ..... i

第1章 野球について(野球をどのようにとらえているのか) ..... 3

- 1 自己主張であり、生きがいとして取り組んだ野球 ..... 3
- 2 長嶋さん、王さんに憧れて野球ファンに ..... 6
- 3 障害者だからこそ最もメジャーな野球で自分の存在をアピール ..... 7
- 4 逆転の発想に気づく(物の見方考え方) ..... 9
- 5 息子と二人三脚で野球ができた喜び ..... 10
- 6 少年野球の名門宝田タックスの元監督鈴江喜久治さんとの出会い ..... 11

第2章 身体障害者の私がなぜ「野球の課」を創り、 ..... 13

全国から人を呼び込むことができたのか? ..... 13

- 1 体育の時間は見学。でも、みんなと一緒に野球がしたかった ..... 13
- 2 初めての試合でいつのまにか監督に ..... 14
- 3 阿南市の早起き野球チーム監督・連盟事務局長に ..... 15
- 4 役員として、全国の大会や会議に参加し、人と地域の実情を知る ..... 16
- 5 全日本早起き野球協会の関係者との出会い ..... 18
- 6 全日本早起き野球協会の事務局長に ..... 20

第3章 野球で町おこしを発想……………22

1 趣味でしてきた野球の経験と人脈を活かして町づくりに挑戦……………22

2 なぜ野球で町おこしなのか?……………23

3 なぜ、日本中どこにもない発想ができたのか?……………24

4 長野県で開催の全日本生涯野球大会をモデルに!……………26

(1) 吉松俊一先生との出会い……………26

(2) 毎年長野県で開催の全日本生涯野球大会……………29

(3) 野球のまちのモデルとなる全日本生涯野球大会を市長と共に視察……………29

(4) ユニークだけど理に合った開会式……………30

(5) にぎわいを実感……………32

(6) 役員・来賓の歓迎会で、生涯野球大会の開催を約束……………33

第4章 野球で町おこしに着手……………34

1 市長を動かす「野球のまち阿南」構想発表 岩浅嘉仁前阿南市長……………34

2 事業着手時の市民の反応は最低……………35

3 萩本欽一さんの茨城ゴールデンゴールズをお迎えして……………35

4 初めて開いた大会 第1回西日本生涯還暦野球大会……………38

	5	注目を集める「野球観光ツアー」……………	41
(1)		野球大好き人間がはまってしまうツアー	41
(2)		おもてなしチームの結成	47
(3)		8年連続して野球観光ツアーに来てくれたTUBE RIDERS (大阪)	49
(4)		沖繩から参加、チアー結成・全日本生涯還暦野球大会開催に発展	51
(5)		半田ゴールド(愛知)テレビ取材に登場	52
(6)		大阪ベイブルーズ(大阪)長野の生涯野球大会が縁で阿南へ	53
(7)		京ヶ峰岡田病院チーム(愛知)	54
(8)		レッドタイガース(大阪)	54
(9)		野洲球友クラブ(滋賀)全日本生涯野球近江富士杯大会がご縁で阿南へ	55
<b>第5章 「野球のまち推進課」創設 ……</b>			
1		全国初「野球のまち推進課」の創設 ……	58
(1)		全国初「野球のまち推進課」	58
(2)		市の顔となる事業を創出しようという試み	59
(3)		産業部に「野球のまち推進課」を配置した価値	62
(4)		国土交通省第1回スポーツツーリズムコンベンションで事例発表	62

		(5)	スポーツ新聞に掲載された佐賀県武雄市の「いのしし課」が好影響	64
		(6)	アメリカCBSニュースから取材の依頼	65
	2		サッポロビール株式会社と「まちづくり協定」締結	66
	3		プロ野球よりも草野球・草野球ほど儲かるスポーツはない	70
	4		野球選手は観光客	72
	5		地域の特性を活かした事業の発掘	73
	6		北信越高校野球選抜出場チームの合宿誘致	75
		(1)	選抜直前合宿のはじまり	75
		(2)	最初に来てくれたのは、佐渡ヶ島の佐渡高校	76
		(3)	敦賀気比高校の選抜優勝	79
	7		大学野球の合宿誘致	81
	<b>第6章 集客に繋がる野球大会の開催</b>			
	1		少年野球全国大会の開催	84
	2		西日本古希軟式野球大会の開催と誘致	87
	3		身体障害者野球大会の開催と誘致	89

4	長時間野球大会の開催	93
5	500歳野球大会の開催	95
<b>第7章 交流事業</b>		
1	モンゴル国との野球交流	98
(1)	東京の映画会社から協力依頼が舞い込む	98
(2)	合併前の旧那賀川町が拓いたモンゴルとの野球交流	99
(3)	映画「モンゴル野球青春記」の製作協力とモンゴル交流	102
(4)	発展するモンゴル交流	107
2	長野県上田市・千曲市・阿南町との交流	109
3	東京都八丈島八丈町との交流	111
4	島根県奥出雲町との交流	115
5	新潟県新潟市との交流	117
6	奈良県宇陀市との交流	118



	<b>第8章</b>	<b>イベント事業の開催</b> .....	121
	1	女子プロ野球公式戦の開催 .....	121
	2	プロ野球マスターズリーグの開催 .....	122
	3	日本宝くじ協会スポーツフェア「ドリーム・ベースボール」開催 .....	124
	4	東京六大学野球オールスターゲームの開催 .....	126
	<b>第9章</b>	<b>屋内多目的施設の完成</b> .....	129
	1	屋内多目的施設の整備と合宿誘致 .....	129
	2	地元の協力による素晴らしい落成式 .....	131
	3	社会人野球・三菱重工広島チームの合宿 .....	133
	4	大学野球・京都大学硬式野球部の合宿 .....	136
	5	徳島インディゴソックスとの協働海外チームの合宿誘致 .....	136
	<b>第10章</b>	<b>市民の協力（行政のものから地域のものになる）</b> .....	139
	1	60歳以上のチアリーダーの活躍 .....	139
	2	婦人会・審判員・放送記録員の協力 .....	144

- 3 グラウンドキーパーの献身的な努力……………146
- 4 一般家庭でインデイゴソックスの選手やモンゴルの少年のホームステイを実施……………150
- 5 国際交流協会や市民が中国・台湾チームの通訳のボランティア……………152
- 6 市民・マスコミが感動する事業にするには何が必要か……………153
- 7 如何にして市民の協力を引き出すか……………154
- 8 観光施設「89番野球寺の創設」……………156
- (1) 四国88箇所詣りから発想……………156
- (2) どんなお寺を造るのか……………158
- (3) 資金をどうやって集めるか……………161
- (4) 89番野球寺の活かし方……………163
- 9 地元の高校(富岡西高校)の選抜21世紀枠からの出場……………164
- (1) 「野球のまち」から甲子園へ それは大きな目標であった……………164
- (2) 北信越地区選抜出場校の阿南合宿がレベルアップに……………164
- (3) 屋内多目的施設の整備により雨天時の練習が可能に！……………165
- (4) 3回目の21世紀枠候補、「野球のまち」が決め手に！……………166
- 「野球のまち」に取材過熱……………168

第11章 全国のメディアが認めた「野球のまち阿南」

1 Forbes Japan ローカルヒーロー賞受賞.....181

(6) 春の便りに町中が盛り上がる 170

(7) アルプススタンドは同窓会 171

(8) 優勝チームに善戦 173

10 まちかどミュージアム(野球グッズ展示).....174

(1) イチロー選手のユニフォーム寄贈から取材合戦 174

(2) 阿南に来てくれた証にユニフォームを寄贈 175

(3) 元南海ホークス杉浦忠さんの記念品を展示 175

(4) 元阪神タイガース岡田彰布さんのユニフォームの展示 176

(5) 元ヤクルトスワローズの館山昌平さんのユニフォームの展示 176

(6) さようなら新野高校野球部展 177

(7) 富岡西高校甲子園展 178

11 お土産品の開発.....179

(1) お土産に野球まんじゅう「球」を開発商品化 179

(2) 竹人形で野球のまちをPR 180

.....181

2	コレゾ (COREZO) 賞受賞	183
3	NHKの番組「サンデースポーツ」で放送	185
4	ベースボールマガジン社刊「野球場物語」に掲載	186
5	「5L(ファイブエル)」に掲載	187
6	全国各地から視察に阿南へ	188
7	阿南市を目標にする自治体と団体 長野県上田市 (全日本生涯野球連盟) 奈良県宇陀市 東京都八丈島八丈町	189
<b>第12章 目指すは「野球のまち・草野球の聖地」</b>		
1	市の顔的事業として、他の事業との差別化が必要	191
2	市の事業として困難であれば民営化も視野に?	193
3	今後の目標は「野球のまち・草野球の聖地」として、全国が注目する事業に!	193
<b>第13章 これまでの経験を活かした活動の可能性</b>		
1	阿南第一中学校前校長松田雄史先生との出会い	195

2	株式会社コントリビュート社長土屋康朗さんとの出会い	196
3	「株式会社コントリビュート徳島営業所」の設置と 「スポーツで町を元気にする会」の立ち上げ	197
4	阿南市役所を退職	198
5	民間の自由な発想により新たな事業に挑戦	199
(1)	市役所事業としての取り組みには限界を感じていた	199
(2)	野球観光ツアーの全国展開	201
(3)	にぎわいを創出するイベントの企画運営	202
(4)	幼児から古希までの野球大会の開催	203
(5)	A B O 60で健康ダンスをP R	204
6	まとめ	205
<b>第14章 自治体職員による野球観光まちづくりの可能性</b>		
(下関市立大学教授 難波 利光)		
1	地方社会の変化	207
2	行政による宣伝力	210

3	野球観光によるコト消費	214
4	野球と関わる高齢女性	218
5	リタイア後の自治体職員	223
資料1	.....	228
資料2	.....	236
資料3	.....	238

野球のまち阿南をつくった男





## 第1章

### 野球について

(野球をどのようにとらえているのか)

#### 1 自己主張であり、生きがいとして取り組んだ野球

科学や文化がどんなに進んでも世の中は予断と偏見に満ちていると思う。まだ若いころ野球チームの監督を始めたころ、私が試合会場に行くと相手チームの選手達が、ゲラゲラ笑いながら「背番号30番付けとるのであいつが監督や、あんなに監督やったら強いはずがない」と囃したててくるのです。「なにくそ！絶対に勝つてやる」と思いました。選手達もすごくよく分かってくれていて、そんなことがあった試合は圧倒的大差で勝利したものです。

私宛に送られたハガキに「前段省略……小学生時代は白球を追いかけた、笑わずな嘘八百でないか、一人前の体でないのに何故野球ができる……」と書かれていました。この偏



前に生きてこられたと思っています。

両親からは、しょっちゅう一人一倍勉強するようにと言われました。手に職を付けるか、内職のような仕事をするしかないとも言われていました。そんな少年時代に体に障害があり、走ったり飛んだり跳ねたりは、うまくできなかったのですが、毎晩のようにテレビで放送される野球中継の投手のマネをしながら、小学4年生から毎日のように家のブロック塀に炭で書いたストライクゾーンを目掛けてピッチング練習をして、6年生くらいになつたころ、いつのまにか、体力が付いてきて、だいたい思ったところに投げられるようになっていました。

そこで近所の友達とチームを作って試合をしました。練習してきた投球はだいたいできたように思いました。コースいっぱいに投げて凡打を打たせて打ち取ることに気を配りながら投球しました。体育の時間は見学でも、近くの神社に友達を集めてソフトボールの試合を毎日のようにしましたが、友達と同じようにできなかったことが残念であったし悔しかったことがずっと心の中にあり、将来機会があったら野球がしたいと思うようになっていたのです。